

導入企業の(株)アルスに聞く、導入効果と給食業界への可能性



左から、(株)アルスの中谷香子さんと小林朋子さん、(株)カイテクノロジーの亀山レオナさんと勝屋亨介さん

働き方改革特集のトップを飾るのは、(株)カイテクノロジーの「Mr. 献ダテマンWeb版」。病院・介護福祉施設、学校保育園…と様々な給食現場の業務改善をサポートするクラウド版の栄養・給食管理ソフトである。特に、コロナ下で導入が著しく進み、2020年の導入件数は879件だったが、2年後には2068件と2.3倍に大きく伸長した。

現場のDXを推進する、まさに現場の救世主といえる。人気の秘訣は何なのか。

関東を中心に病院、介護施設、企業、学校など多岐にわたる給食事業を展開する(株)アルスでは、「Mr. 献ダテマンWeb版」を4年前に導入。生産性を高めた結果、コロナ禍もスムーズに在宅勤務にシフトするなど、働き方改革を実現したという。(株)カイテクノロジー TAS/パッケージ販売事業部の勝屋亨介さん、同事業部管理栄養士の亀山レオナさんと一緒にアルス(株)本社を訪問し、営業本部業務課の小林朋子さんと商品本部栄養管理室の中谷香子さんに詳しい話を聞いた。

「Mr. 献ダテマンWeb版」の導入効果と給食現場の可能性に迫る。

「Mr. 献ダテマンWeb版」導入前の課題

— 導入以前の課題を教えてください

小林 当社は4年前に栄養管理ソフトを「Mr. 献ダテマンWeb版」に切り替えました。従来のソフトは出力できる帳票の種類が限られ、出力にも時間がかかっていました。PDF出力しか対応できず、施設様が求めているフォーマットで出力できないなど、こちらの要望どおり活用できませんでした。作業が止まってしまうことや、現場に行かないと作業できないこともありました。そこで、3社ほど見積もりを取り、当社が求めているソフトについて考えた結果、「Mr. 献ダテマンWeb版」に決めました。

決め手は現場目線の操作性と画面のかわいさ

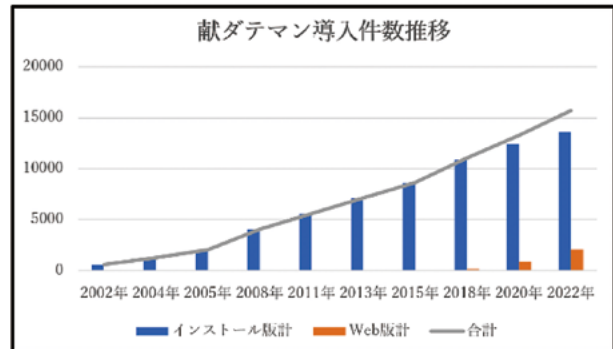
— 導入の決定要因は何でしたか

中谷 価格面も大事でしたが、分かりやすい操作性が挙げられます。給食現場では、栄養士だけでなく、調理師やパート従業員もソフトに触ります。どのような方でも使えるよう工夫されている点が魅力の1つです。カイテクノロジーさんでは、栄養士の方が開発に携わっているので、現場目線で操作しやすい機

(株)カイトテクノロジー「Mr.献ダテマン」の導入状況

「Mr. 献ダテマン」は、病院・福祉施設・保育園給食等で活躍する栄養士や管理栄養士のための献立栄養計算、給食管理業務を支援するソフト。

使用にあたっては、インストール版とWEB版があり、その累計導入件数は2023年2月時点で15,719件。近年は、場所を選ばず利用でき、多拠点で情報を共有できるWEB版のニーズが高まっており、病院、福祉施設、保育園、社員食堂、給食会社など、各施設の特色に合わせた献立作成・発注・在庫管理が可能だ。



能をしっかりと組み込んでくれていて、余計な機能が入っていません。

勝屋 「Mr. 献ダテマン」は栄養士・管理栄養士に愛されて40年の歴史があります。その間、社内の栄養士が現場の声をヒアリングして日々ブラッシュアップしてきました。その蓄積が使いやすさにつながっていると思います。

中谷 また、画面のかわいい見かけも気に入っています。現場は女性社員が多いので、画面の色合いがかわいく、見やすい点はとっても良いと思います。

勝屋 開発では、色鮮やかな見た目や、機能ごとに分かりやすく表示する点にもこだわっているの、そう言っていただけて大変嬉しいです。

— 業務効率化の必要があっても、現場の声だけでは導入が難しい場合があります。会社上層部の反応は

中谷 当時、献立を本社が一括で作成することが当社の課題でした。それまでの栄養ソフトでは統一献立を十分に作れなかったこともあり、会社の方針と現場の要望がマッチしたことから、導入はスムーズでした。

権限管理機能で有効活用

— 見積を取られた他2社が不足していた点は

中谷 施設ごとに、使える機能と使えない機能を管理できる点です。全ての項目を自由に変更、入力できてしまうと、本部で一括管理するというテーマとずれてしまいますので、役職・担当ごとにアクセス権限が絞れる点が、「Mr. 献ダテマン」の魅力でした。

勝屋 「Mr. 献ダテマン」には、権限管理機能があり

ます。管理者権限を付与すれば入力できますが、逆に権限がないと入力できません。

導入後のサポートもバッチリ

— 本部と現場でどれくらいの方が利用されているのか

中谷 本部では11人。現場は、介護施設をメインに30施設ほどで利用しています。

— 導入はスムーズでしたか

中谷 以前のデータを移す必要があるの、切り替えは大変でした。基本の食品マスタの食品成分表のデータはすでに入っていましたが、当社オリジナルの完全調理済食品などは再度登録し直す必要があり、受託施設数も多かったの、3ヶ月くらいマスタ登録に時間をかけましたが、それ以外は大きな問題はありませんでした。現場は「新しいソフトにすぐ慣れて、「操作しやすくなった」「仕事が早くなった」という声がよく聞かれました。

— カイトテクノロジーさんは導入時に

どのようなサポートを

勝屋 サポートセンターにも栄養士がいるので、現場目線でお客様の悩みをヒアリングし、運用まで入り込みサポートします。「Mr. 献ダテマン」を選ぶ理由に、導入後のサポート体制を挙げる方も大勢います。

小林 当社の要望をちゃんと聞いてくれて、それを反映してくれました。また、分からなかったことがあって電話した際には、すぐに解決策を教えてくれたことを覚えています。

勝屋 アルス様には導入前のデモンストレーション

や選考段階から担当が入り、要望を伺っていたかと思いますが。綿密にヒアリングを行い、既定のフォーマットから変えられる範囲でカスタマイズして、提供します。

遠隔操作で時間も手間もカット！ 一元管理の効果は絶大！！

— 続いて、導入効果について教えてください

中谷 遠隔操作できるクラウド機能が1番です。導入前は、施設に行ってデータを変更しなければいけなかったのですが、商品の切り替え時には施設を転々と回る必要がありました。多拠点で場所を選ばず操作でき、多人数で共有して、一元管理もできます。その効果は絶大です。

— 時間も手間もカットされましたか

中谷 献立にかかる時間はかなり削減しました。本部で統一献立を作って配信すれば、現場はそれをもとに食事を提供できるので省力化につながります。本部と現場の情報共有も無駄がなく円滑です。

— 現場の反応は

中谷 帳票の出力が早くなり、だいぶ楽になりました。以前のソフトは1日ずつしか献立内容を出せませんでしたが、1ヶ月まとめて出せるようになりました。現場にもありがたいソフトだと思います。あと、ダウンロード予約機能も現場が喜ぶ機能です。時間があるときに、同時並行で他の入力作業ができるので、事前準備ができて便利です。

コロナ禍はスムーズに在宅勤務に 働く場所、時間を選ばないため定着率が向上

— クラウドだといろいろな人が触れることができ、
場所も時間も選ばせません。在宅ワークの増加など、
働き方への影響はありますか

小林 それは大いにあります。コロナ前に導入できたので、私たちはスムーズに在宅で仕事できました。本部で栄養ソフトを使う11人のうち、5人は在宅勤務をしています。残りの6人は状況に応じて、出社と在宅を使い分けています。

緊急時には、家でパソコンを開けて作業できるか、できないかが大事になってきます。近年、日本では台風や大雪など自然災害が多く発生していますし、給食業界は女性が多く、体調不良で出社が難しいことも起こりうるので、そうしたときでも自宅で仕事

ができるのはとても良いことだと思います。

従来であれば、出産後、出勤を求められると、就業継続が難しいことが多かったのですが、自宅でも仕事が可能になったので、会社を辞めずに仕事を続けている社員もいます。ご家族の転勤などで遠方に引っ越しせざるをえない方も、これまでどおり同じ仕事をさせていただいています。働き手だけでなく、会社としてもメリットは大きいです。

— 女性が多いこの業界。長く働き続けられる
環境作りはとてもすばらしいですね

小林 本部では、お子さんの体調が悪い日は在宅勤務をしている方や、お子さんのお迎えの時間に合わせて働いている方もいます。在宅勤務だと出勤にかかる時間が短縮できるので、それも大きいです。

— フレキシブルな働き方は増えてますか

小林 現場で働く方が多いので、会社全体的には少数ですが、本部は増えています。引越や結婚、出産があっても、そのまま自宅で働き続けられるので、定着率は上がりました。

お客様との献立内容の共有も簡単に

— 「Mr. 献ダテマンWeb版」導入による
お客様への効果は

中谷 当社は献立管理も受託しているので、お客様から献立内容を見たいと言われる場合があります。従来は、献立以外の情報も含まれたのでそのまま提出することができませんでした。しかし、「Mr. 献ダテマンWeb版」だと、先述の権限管理機能があるので、設定を変えるだけで閲覧が可能になりました。当社に確認や質問をせずとも、お客様がソフトを見ればすぐに分かるようになったメリットもあります。

期間単価設定機能で食材高騰にも対応

— 最近の取り組みで、「Mr. 献ダテマンWeb版」を
使っていて良かった点は

中谷 昨年秋にカイテクノロジーさんに対応いただいたのが、期間単価の設定です。これにはとても助かっています。

というのも、この1,2年、値上げブームと呼ばれるほど物価が上昇しています。値上げの品種は多く、メーカーごとにそのタイミングもまちまちです。例えば5月1日から値上げと言われても、先々の献立も作っているの、切り替えを忘れてしまうこ

ともあります。値上げのタイミングに合わせてデータを更新するのが難しく、その対応にとっても困っていました。

そこで、カイトテクノロジーさんに相談をしたところ、機能を付与していただき、期間を設定して単価を入力、変更予約ができるようになり、とっても楽になりました。

亀山 期間単価の設定機能は、メーカーの値上げのタイミングに合わせて単価変更を予約することができます。これまでは発注マスタという機能に直接金額を入力する必要があったので、そのたびに更新をかけるので、過去の金額が消えてしまっていました。値上げのたびに期間単価を設定すれば、切り替えを忘れることもなく、過去の単価の比較もできます。

— 食材高騰が続く中、こうした現場のニーズにすぐに対応されるのはすごいですね。原価変更の要望は結構ありましたか

勝屋 多かったです。特に、給食サービス企業の皆様からご要望がありました。過去の単価を保存する必要があるので、開発と検証は大変で1年ほど時間がかかりましたが、現在、とても喜ばれている機能の1つです。

受託サービスだけでなく外販でも活躍

— 最後の質問です。「Mr. 献ダテマン」は、給食業界に貢献するサービスと言えますか

小林 もちろんです。本部・現場ともに欠かせないソフトであり、多方面でおすすめします。また、当社は給食受託サービスだけでなく、外販も行っており、「Mr. 献ダテマン」が活躍しています。

— 外販について詳しく

小林 オリジナルの完全調理済食品を介護老健施設やサービス付き高齢者向け住宅に販売しており、近年、その導入施設数が伸長しています。昨年は、さらなる需要に対応するため、「Mr. 献ダテマンWeb版」と連動した受発注システムを開発。活用しています。

— 受託サービスと外販で同じソフトを使うメリットはありますか

小林 同じ画面、同じホームページURLでできるのは大変便利です。社内でも「Mr. 献ダテマンWeb版」にしてよかったね！という声が結構聞かれます。

給食業界から選ばれる4つの理由

— カイトテクノロジーさんに質問です。

給食業界から選ばれ続ける理由は

勝屋 これまでにも話に挙がりましたが、主に次の4点が挙げられると思います。

1つ目は、管理栄養士の資格を持ち、現場業務を理解している社員がソフトの開発に携わり、導入時の運用相談から日常業務でソフトを使いこなせるようになるまでの全面的なサポートを行っている点です。サポート専用のダイヤルを設けるなど、アフターフォローも充実しています。

2つ目は、「Mr. 献ダテマン」は、様々な施設の運用形態に対応し、幅広い業態のニーズに応える管理機能を数多く搭載している点です。

3つ目は、発売開始から40年強にわたり、ユーザーの管理栄養士や栄養士にヒアリングを行い、新機能の開発やサービスの強化を図ってきました。日常業務の中でよく使う機能についての仕様や操作性を徹底的に追求し、スムーズにソフトが稼働するように献立作成に必要な食品や料理のサンプルデータ等を数多く搭載している点です。

4つ目は、業界に先駆けてクラウドで動作するWeb版をリリースした点です。栄養士や管理栄養士のリモートワークの推進など、ウィズコロナ時代の新たな働き方の定着に貢献しています。

人手不足による付帯業務の解消にも注力

食品販売会社向けの「Mr. 献ダテマンWeb」も開発

— 最後に、給食業界にどう貢献したいのか

意気込みをどうぞ

勝屋 「Mr. 献ダテマンWeb版」には「期間単価の設定機能」など様々な付加価値があります。ご利用者に向けて、さらなる業務効率化に努めていきたいと考えます。栄養士の皆様に直接貢献するのもそうですが、人手不足による付帯業務の負担も非常に大きくなってきています。そうした付帯業務の解消にも注力していきたいと思います。

また現在、リリースを計画しているのが食品販売会社と「Mr. 献ダテマンWeb版」が連携可能なソフトです。食品や商品を「Mr. 献ダテマンWeb版」上でワンクリックで発注できる便利なソフトで食品販売会社の販促にもつながります。こうした構想で給食業界全体の業務効率化を目指していきます。